



雨水市民の会 & 雨水利用事業者の会



2012年11月

元小学校教師の吉田正子さんが、園芸の好きな被災者仲間やボランティアたちと一緒に「花っこ畑」を作り始めたのが、2011年夏。その後、震災復興支援団体『花のカプロジェクト』ら、全国から多くのボランティアが関わり、「陸前高田市民と復興を願う人々が集う庭になるように」と願い、「希望の庭」と呼ぶようになったとのこと。また一角には、滋賀県立大学環境科学部／柴田いづみ教授指導のもと、間伐材を利用して、学生たちが作り上げたのが、「希望の庭の小さな家」。「家があつての庭…」吉田さんの言葉を受けて、柴田教授が寄贈されました。そして「水があつての花」。「雨水活用が、この庭にとって象徴的存在となってほしい」という吉田さんの想いを実現すべく、雨水市民の会と雨水利用事業者の会が協力して設置、寄贈いたしました。



2013年5月

## 陸前高田「希望の庭」雨水活用支援プロジェクト



内部「ミニダム」



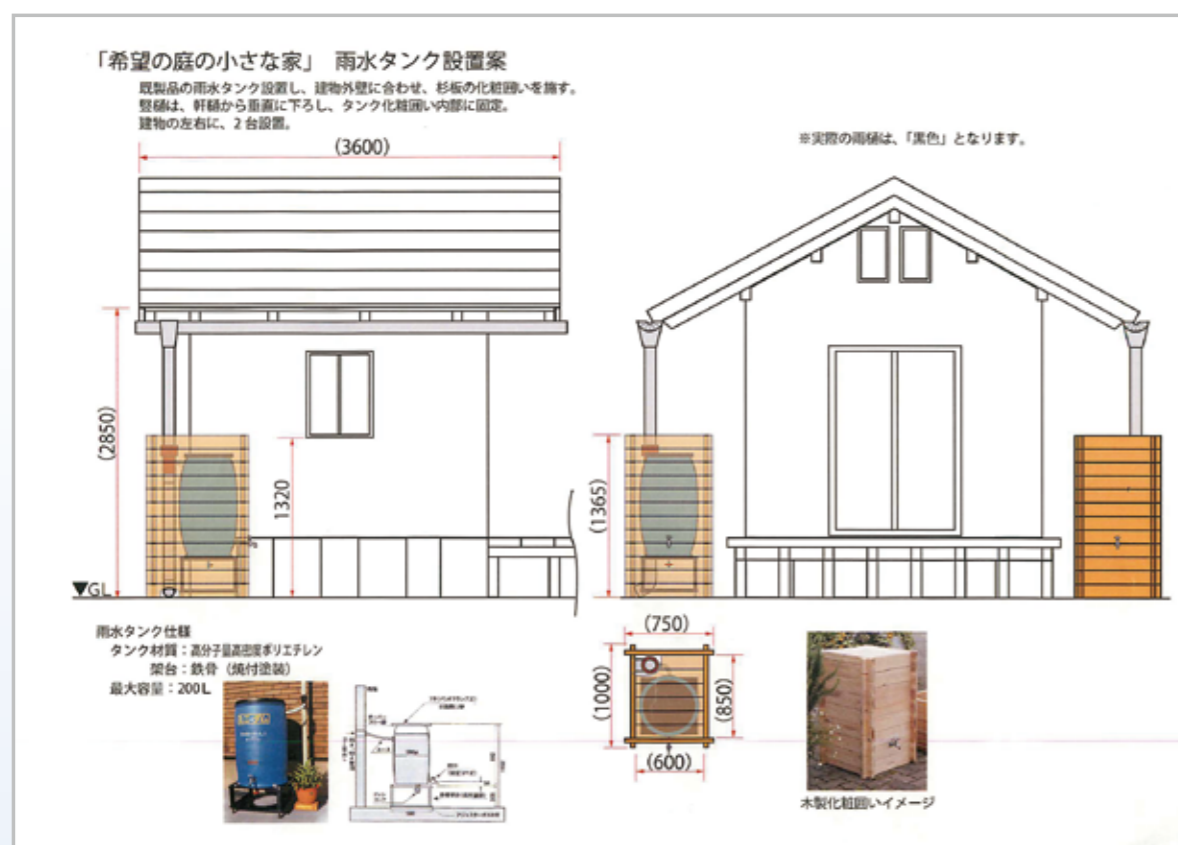
「雨樋 AMEBITS ミニ」応用



「雨葉」集水の様子



70cmほど地盤沈下した土地に砂利を入れている為、途中から鋼管の杭を打つのも大変。



■場所：岩手県陸前高田市米崎町（吉田さん自宅跡地）  
 ＊水道・電気設備は、復旧していました。

■期間：調査>2012年11月13・14日  
 設置工事>2013年5月17・18日

### ■設置施設

(1) 雨水タンク [200ℓ] : 2基

「小さな家」の左右両脇に、家と同じく間伐材でできた特注雨水タンク。「ミニダム/サンエビルドシステム(株)」、雨水集水器、縦樋と配管をまるごと「雨樋 AMEBITS ミニ/ (有) 風大地プロダクツ」の杉板で囲い内側に縦樋を這わせて固定できたので、すっきり・しっかりとした仕上がりになりました。

(2) 雨水簡易集水ネット「雨葉」: 5張り  
 ＊貯水部はテラコッタの鉢 [約80ℓ]

市民の会会員でもある吉村デザイン工房(福岡県)の製品。畑や山中などの屋根のない所にネットを張り、雨水を集めるユニークな品。シンボリックでありながら庭と調和し、良い景観をつくっていました。



EM菌を混ぜた震災の木材瓦礫をチップ状にした緑化基盤材が利用されていました

### ■周辺の様子 [2012/11月 - 2013/5月現在]

- ①地盤沈下で水が貯まったままの陸前高田駅近く
- ②4階まで津波に呑まれた5階建団地（海岸線に近いバイパス付近）
- ③吉田さんから当時の状況を伺う（写真は、津波に流される自宅と震災前の現地）
- ④お花畑の向こうは、消えては現れる瓦礫分別処理場の山

